

物流業界が抱える課題とは？ 今後の動向と改善対策について



内陸ハブ拠点設置

2024年9月27日

吉田運送株式会社 代表取締役 吉田孝美

会社概要



- 社名 吉田運送株式会社
- 代表取締役 吉田孝美
- 創業 1973年 創業50年
- 資本金 10,000,000円
- 従業員 70名
- 所在地 本社
佐野インランドポート
東京支社
真岡出張所

坂東ドライポート



20,000㎡

茨城県坂東市半谷224-15

栃木県佐野市戸奈良町2500-3

東京都港区港南2-3-1 大信秋山ビル329

栃木県真岡市鬼怒ヶ丘1-10-4

佐野インランドポート



4,000㎡

茨城県坂東市半谷224-15

栃木県佐野市戸奈良町2500-3

東京都港区港南2-3-1 大信秋山ビル329

栃木県真岡市鬼怒ヶ丘1-10-4

坂東コンテナターミナル

住所：茨城県坂東市半谷224-15

デポ面積：約20,000㎡

最大収容コンテナ本数：1,400TEU

荷役機器：45 t リーチスタッカー 2台

7 t トップリフター 2台

保税蔵置場：あり



佐野インランドポート



住所：栃木県佐野市戸奈良町2500-3

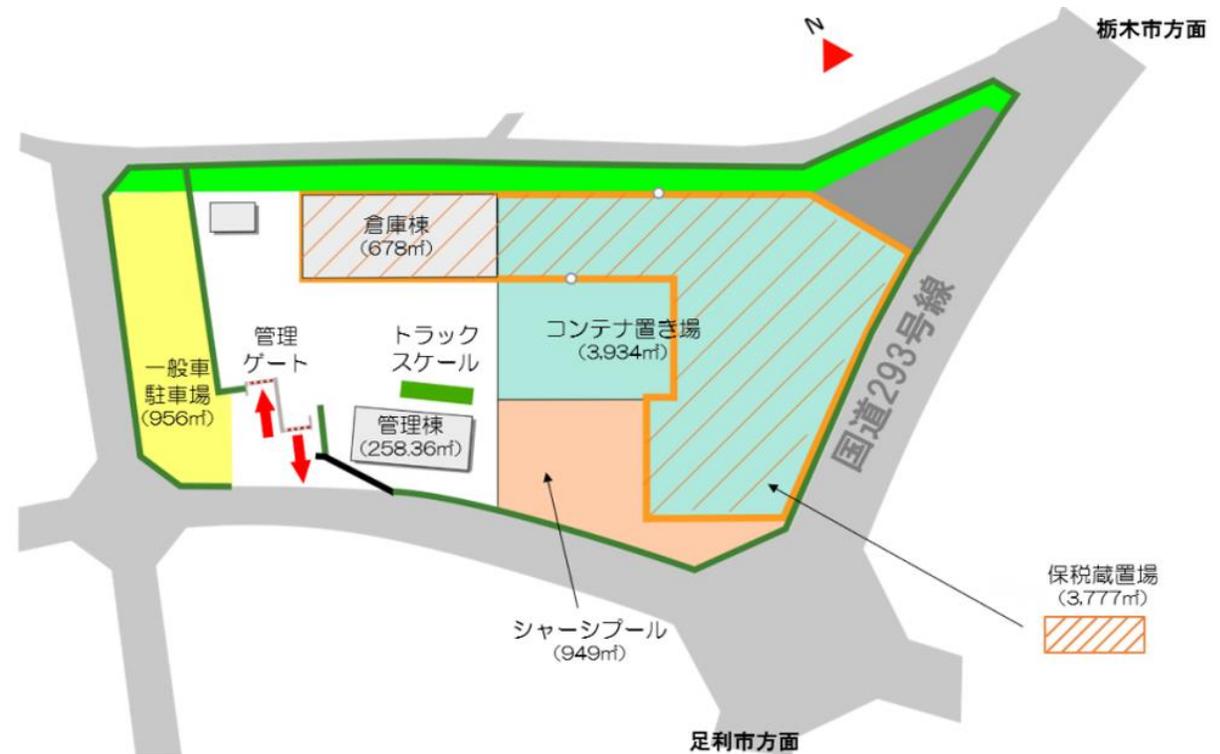
デポ面積：約4,000㎡

最大収容コンテナ本数：200TEU

荷役機器：45tリーチスタッカー 1台

保税蔵置場：あり

保税倉庫：あり



吉田運送デポと各港の所要時間

東京港～坂東コンテナターミナル
距離：約 80 km
所要時間：1時間 30分～2時間（高速道路）

東京港～佐野インランドポート
距離：約 115 km
所要時間：2時間～2時間 30分（高速道路）



事業内容

◆インランドハブポート事業

- 海上コンテナドレージ
- 内陸コンテナヤード
- コンテナ保管
- CRU（コンテナラウンドユース）



契約船社数 16船社（日本一の契約数）



事業内容 (ONEインランドコンテナヤード契約)



蔵置能力：1,400TEU
敷地面積：約20,000m²
リーチスタッカー：2台
トップリフター：2台



オーシャン ネットワーク エクスプレス ジャパン 株式会社
〒108-0075 東京都港区港南 1-8-15 Wビル
Homepage : <https://jp.one-line.com/ja>

2022年8月1日

茨城県坂東市にインランドコンテナヤードを設置 ～トラックの輸送効率化に貢献し環境負荷を低減～

この度、オーシャンネットワークエクスプレスジャパン(株)は、2022年8月1日に茨城県坂東市にインランドコンテナヤード(以下内陸CY)を設置致します。

同内陸CYは現在も内陸デポとしてラウンドユースや、空コンテナの引取り及び返却等の拠点として活用しておりますが、内陸デポから内陸CYとする事で坂東内陸CY発着の船荷証券(B/L)のお取り扱いが可能となります。

本取り組みを通じて、コンテナの引取り、搬入・返却のトラックの往復回数・走行距離の合理化や、CO2の削減をはじめとした環境負荷の軽減に貢献します。また、東京港の混雑軽減やいわゆる働き方改革関連法によるトラックドライバーの時間外労働時間の制限導入に起因する問題など様々な物流課題解決に貢献するものと考えます。

当社は、今後も同内陸CYを東北地方の各拠点と京浜港との中間拠点として、また北関東の各拠点の発着起点としての利用の促進を目指してまいります。

【詳細】

名称	坂東コンテナターミナル	保税地区	26W45
住所	茨城県坂東市半谷 224-15	利用者コード	2BYDU
CYオペレーター	吉田運送株式会社	収容能力	700FEU



第12回グリーン物流パートナーシップ会議 優良事業者表彰 経済産業大臣表彰（最高賞）

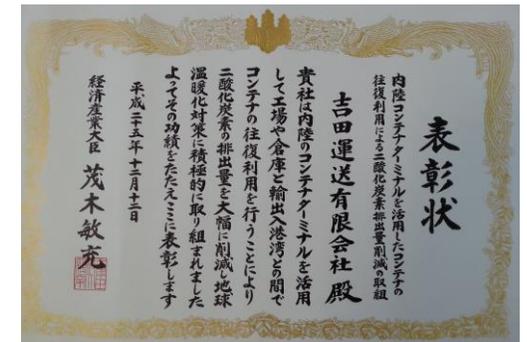
<件名> 内陸コンテナターミナルを活用したコンテナの往復利用（ラウンドユース）による二酸化炭素排出量削減の取組



<受賞企業者> ※計22事業者（茨城県を含む）
 (株)クボタ、(株)東芝、(株)イトーヨーカ堂、
 キリンビール(株)、(株)オートウェイ、
 サントリービジネスエクスパート(株)、
 シャープトレーディング(株)、(株)アシックス
 ナイキジャパン合同会社、(株)ジョイフル本田、
 NYK CONTAINER LINE(株)、(株)MOL JAPAN、
 (株)ケイラインジャパン、(株)韓進海運、APL、
 OOCL、SABIC、ケービーエスクボタ(株)、
 みなと運送(株)、山九(株)、茨城県、**吉田運送(有)**

<事業概要>

往路及び復路の何れかが空となる海上コンテナのトラック輸送において、内陸コンテナターミナルを活用し、効率的にコンテナの往復利用（ラウンドユース）を行うことで、物流の効率化及び二酸化炭素の排出量削減を図る取組。



その他受賞歴

- ・ 第1回めぶきビジネスアワード 地域創生賞 受賞
- ・ クラウド実践奨励賞 受賞
- ・ 第3回スタ★アトピッチ Japan 関東ブロック
オーディエンス賞 エヌエヌ生命賞 ダブル受賞
- ・ グリーン物流パートナーシップ会議 強靱・持続可能賞 受賞



物流業界が抱える課題



- 人手不足
- 燃料費の高騰
- 2023年4月から月60時間を超える時間外労働の割増賃金率が引き上げ
- 2024年問題（時間外労働の上限規制）

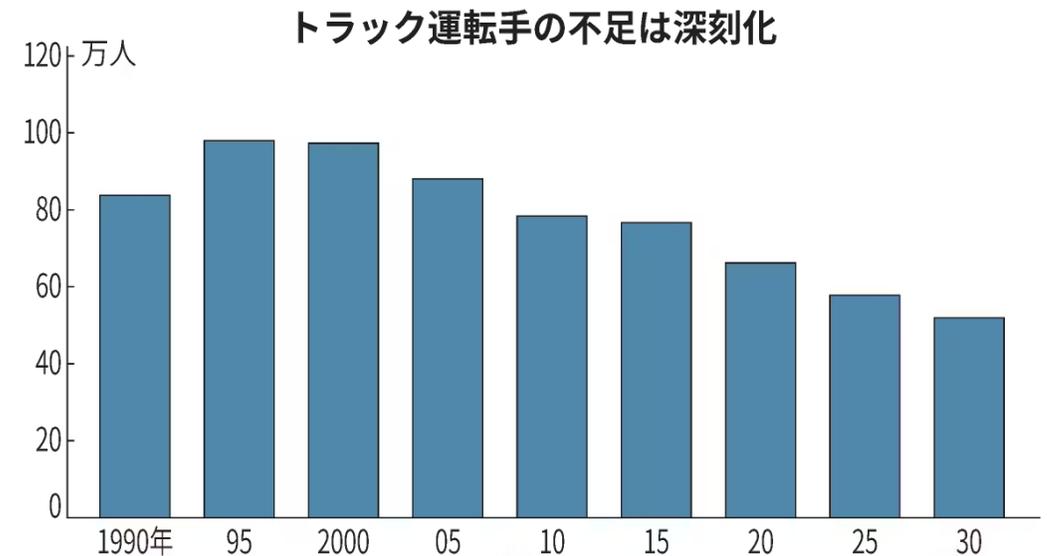
※ 労働時間は原則 1 週40時間、1日 8 時間（法定労働時間）以内の必要があると労働基準法で定められています。

人手不足

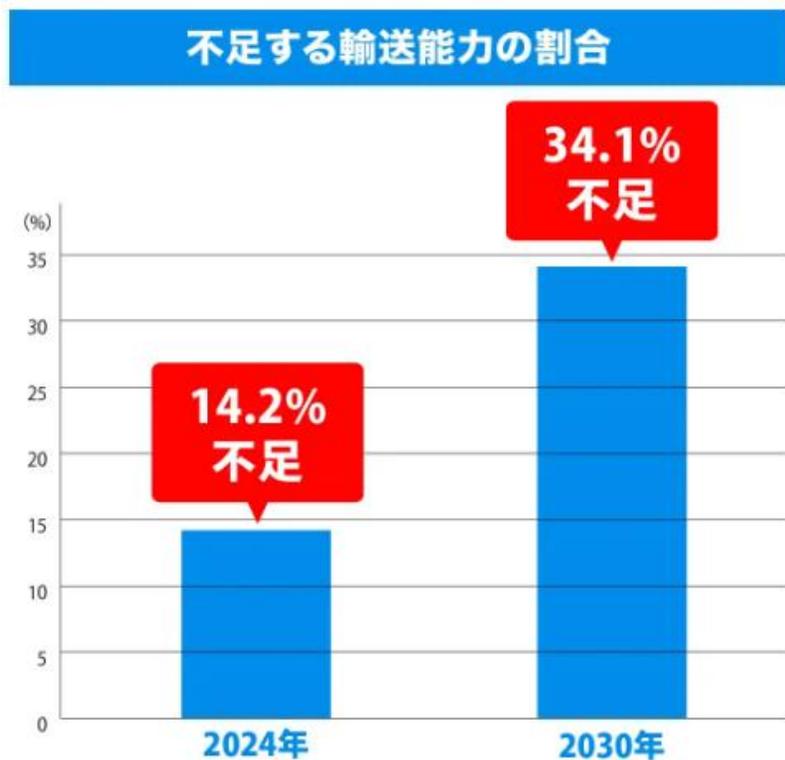
- 76万人のドライバー（2015年）



- 53.2万人のドライバー 30%減（2030年）



2024年問題

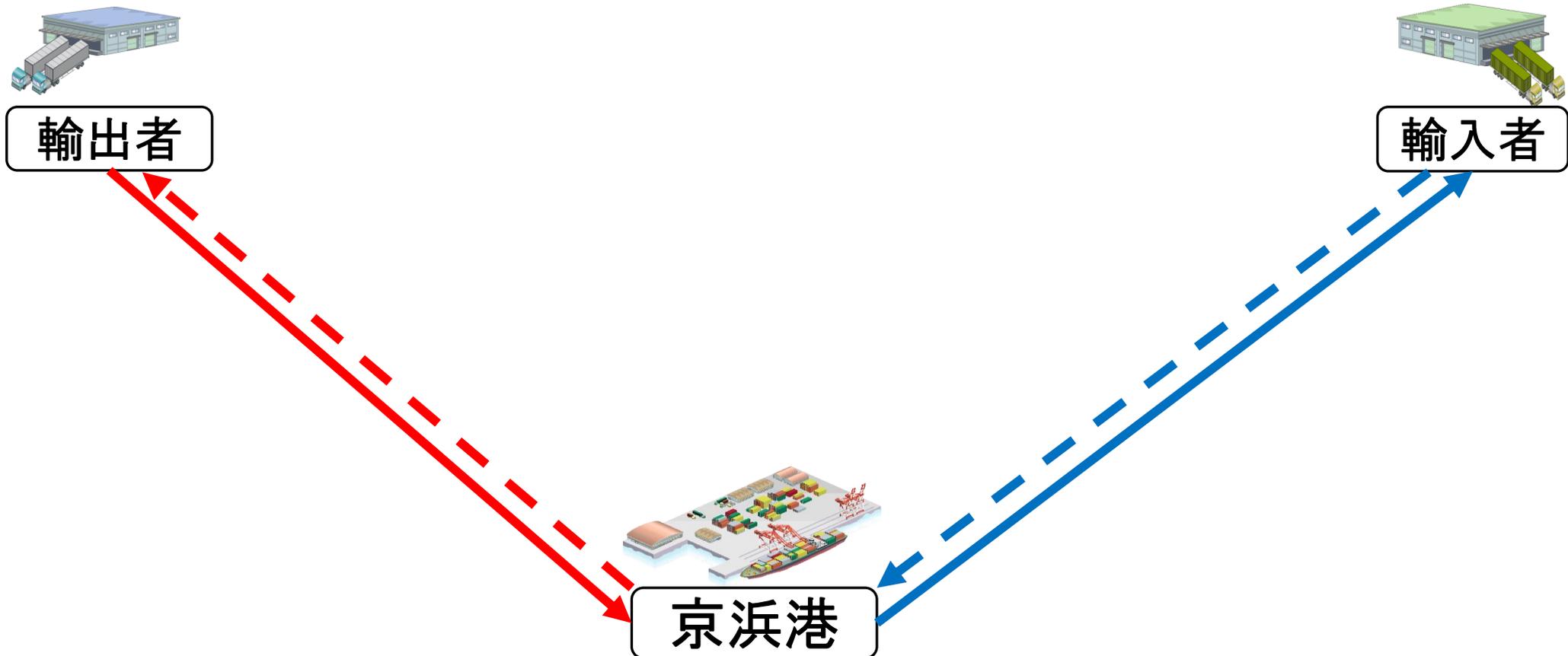


- 2024年問題に対して何も対策を行わなかった場合には営業用トラックの輸送能力が2024年には14.2%さらに2030年には34.1%不足する可能性がある」と試算しています。

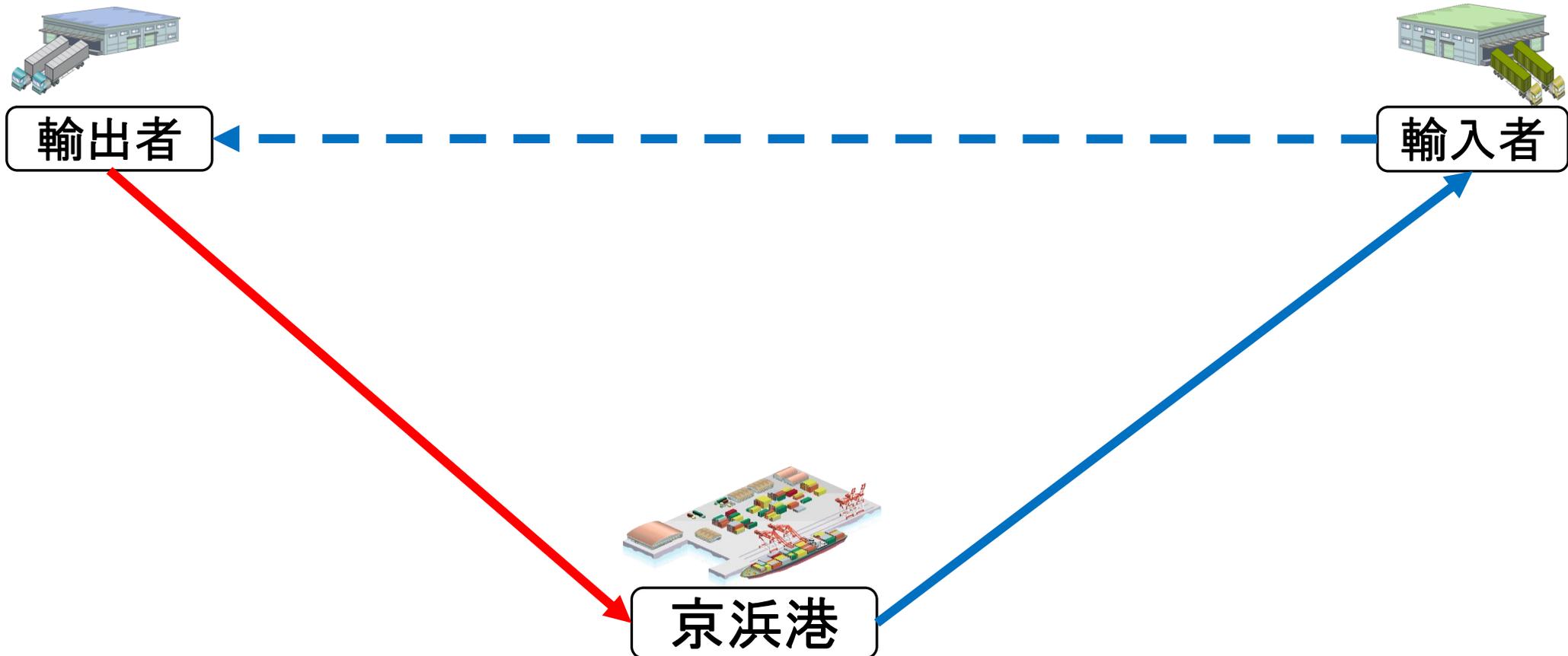
内陸ハブ拠点設置が必須



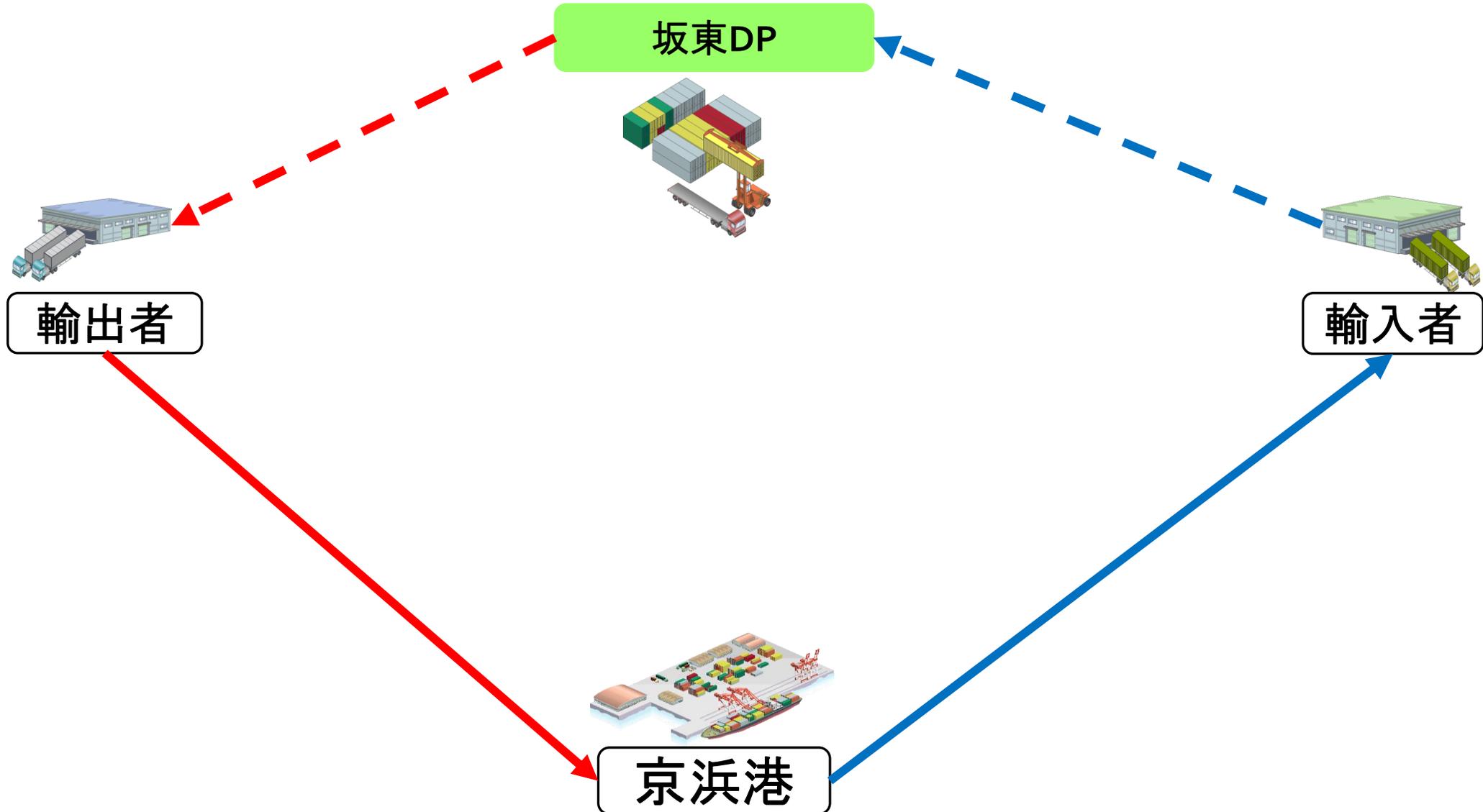
コンテナラウンドユース



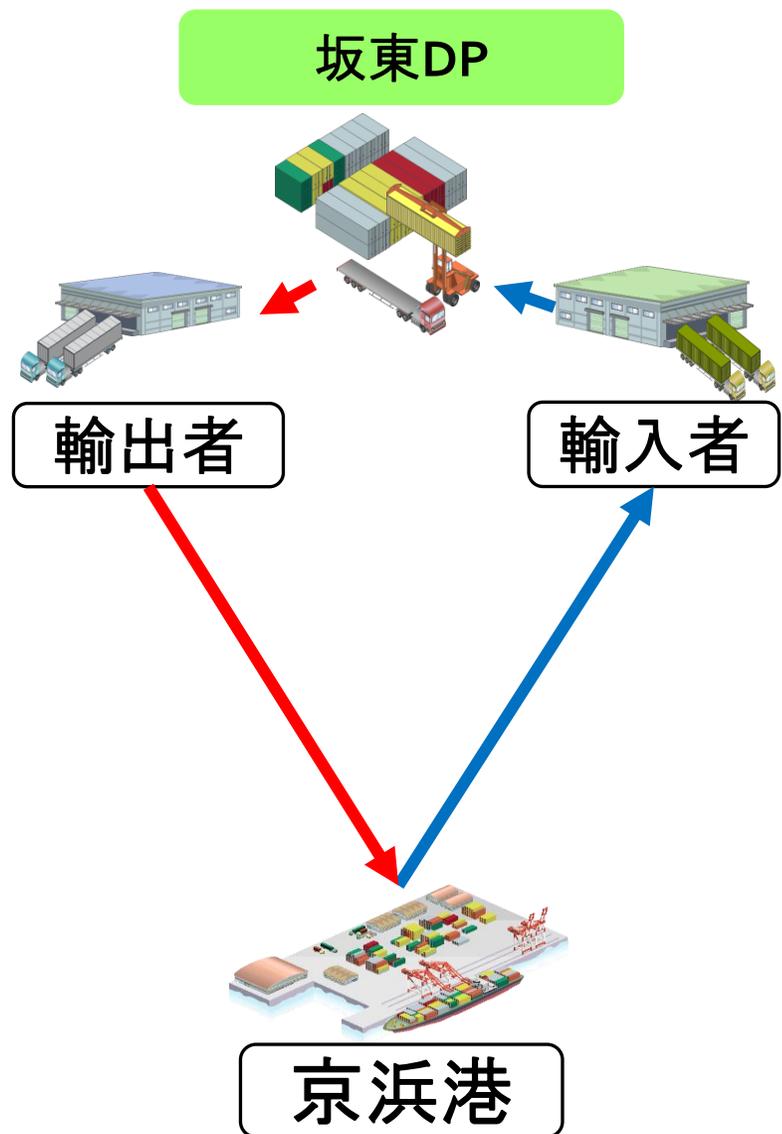
コンテナラウンドユース



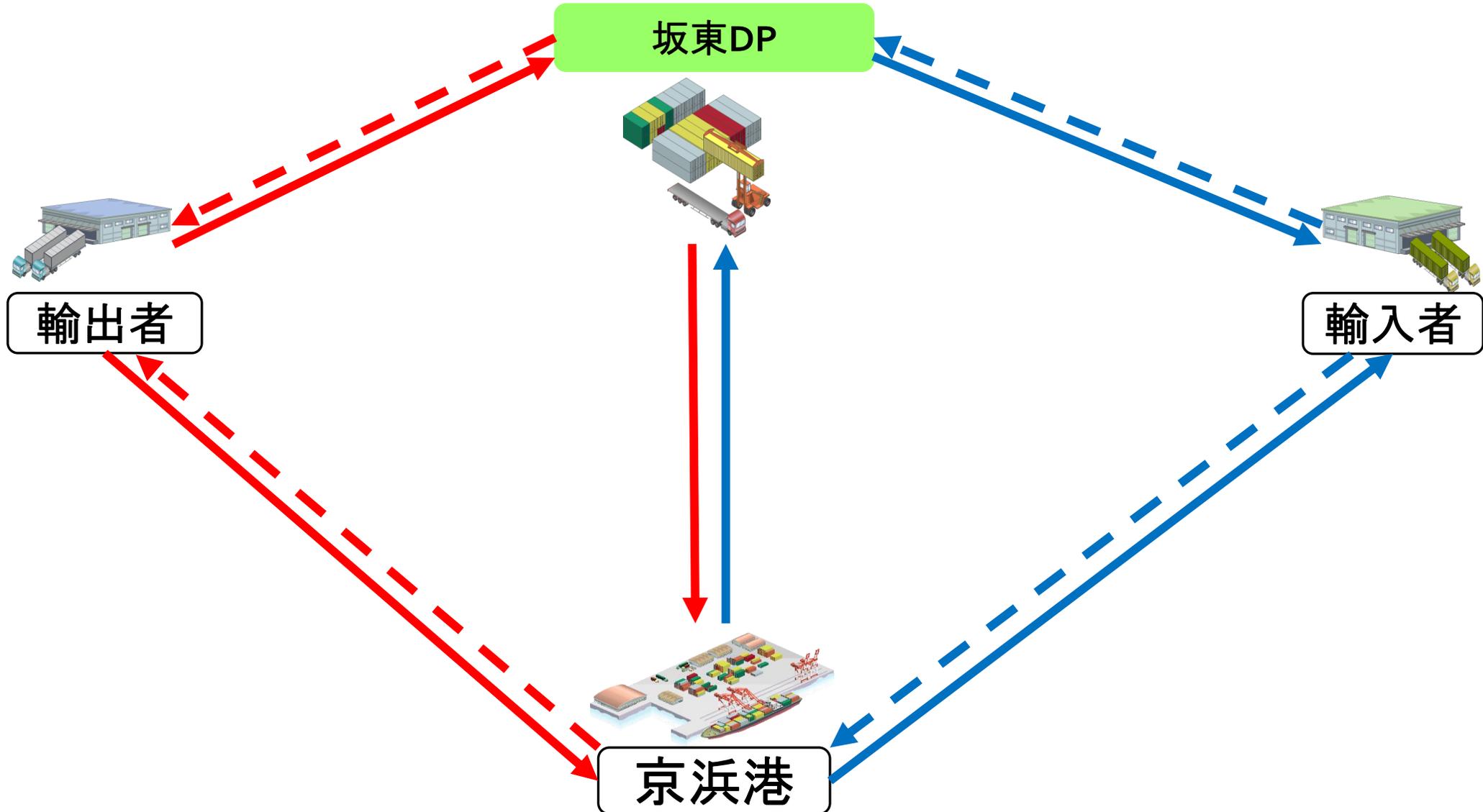
コンテナラウンドユース



コンテナラウンドユース

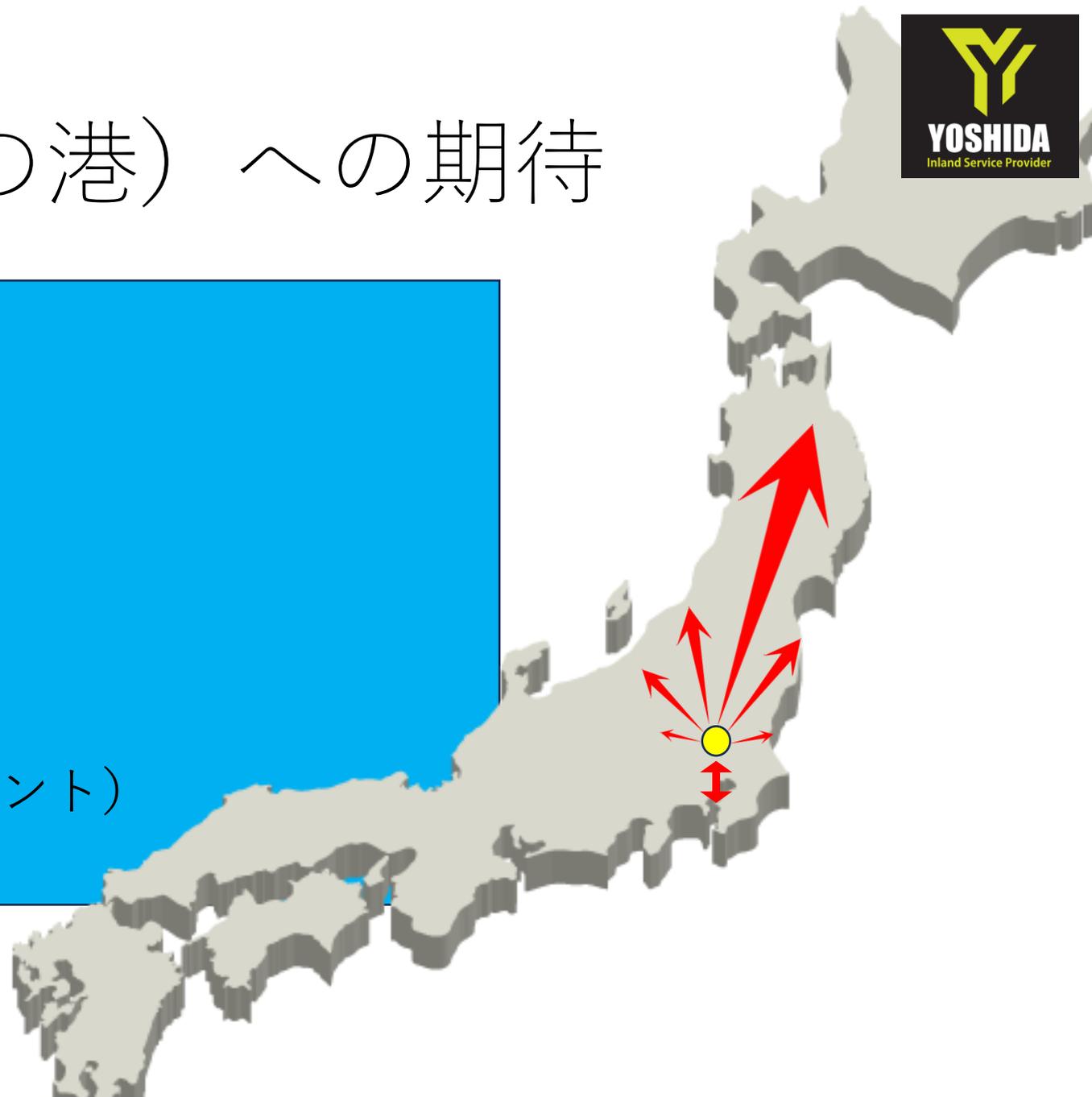


コンテナラウンドユース



ドライポート（陸の港）への期待

- 物流費高騰の抑制
- 労働時間上限規制 2024対策
- CO2削減効果
- 雇用創出（女性ドライバーの採用）
- 地域活性
- 地方消費税2.2%が茨城県内で
- 中継リレーポイント（国内輸送対応）
- 保管ニーズ（季節要因や各種国際イベント）
- 防災備蓄拠点



産業集積エリア・茨城から新しい物流スタイルを発信

ご清聴ありがとうございました